売文問答

芥川龍之介

編輯者　わたしの方の雑誌の来月号に何か書いて貰へないでせうか？

作家　駄目です。この頃のやうに病気ばかりしてゐては、到底何もかけません。

編輯者　其処を特に頼みたいのですが。

　この間に書かば一巻の書をも成すべき押問答あり。

作家　――と云ふやうな次第ですから、今度だけは不承して下さい。

編輯者　困りましたね。どんな物でも好いのですが、――二枚でも三枚でもかまひません。あなたの名さへあれば好いのです。

作家　そんな物を載(の)せるのは愚ぢやありませんか？読者に気の毒なのは勿論(もちろん)ですが、雑誌の為にも損になるでせう。羊頭(やうとう)を掲(かか)げて狗肉(くにく)を売るとでも、悪口(あくこう)を云はれて御覧なさい。

編輯者　いや、損にはなりませんよ。無名の士の作品を載せる時には、善(よ)ければ善い、悪ければ悪いで、責任を負ふのは雑誌社ですが、有名な大家の作品になると、善悪とも責任を負ふものは、何時(いつ)もその作家にきまつてゐますから。

作家　それぢやなほ更(さら)引き受けられないぢやありませんか？

編輯者　しかしもうあなた位の大家になれば、一作や二作悪いのを出しても、声名（せいめい）の下（くだ）ると云ふ患（うれひ）もないでせう。

作家　それは五円や十円盗（ぬす）まれても、暮しに困らない人がある場合、盗んでも好（い）いと云ふ論法ですよ。盗まれる方こそ好（い）い面（つら）の皮です。

編輯者　盗まれると思へば不快ですが、義捐（ぎえん）すると思へばかまはんでせう。

作家　冗談（じょうだん）を云っては困ります。雑誌社が原稿を買ひに来るのは、商売に違ひないぢやありませんか？それは或主張を立ててゐるとか、或使命を持ってゐる

とか、看板はいろいろあるでせう。が、損をしてまでも、その主張なり使命なりに忠ならんとする雑誌は少いでせう。売れる作家ならば原稿を買ふ、売れない作家ならば頼まれても買はない、――と云ふのが当り前です。して見れば作家も雑誌社には、作家自身の利益を中心に、断るとか引き受けるとかする筈ぢやありませんか？

編輯者　しかし十万の読者の希望も考へてやつて貰ひたいのですが。

作家　それは子供瞞しのロマンテイシズムですよ。そんな事を真に受けるものは、中学生の中にもゐない

でせう。

編輯者　いや、わたしなどは誠心誠意、読者の希望に副ふつもりなのです。

作家　それはあなたはさうでせう。読者の希望に副(そ)ふ事は、同時に商売の繁昌(はんじやう)する事ですから。

編輯者　さう考へて貰(もら)つては困ります。あなたは商売商売と仰有(おつしや)るが、あなたに原稿を書いて貰ひたいのも、商売気(しやうばいげ)ばかりぢやありません。実際あなたの作品を好んでゐる為もあるのです。

作家　それはさうかも知れません。少くともわたしに書かせたいと云ふのは、何か好意も交(まじ)つてゐるでせ

う。わたしのやうに甘い人間は、それだけの好意にも動かされ易い。書けない書けないと云つてゐても、書ければ書きたい気はあるのです。しかし安請合をしたが最期、碌な事はありません。わたしが不快な目に遇はなければ、必あなたが不快な目に遇ひます。

編輯者　人生意気に感ずと云ふぢやありませんか？一つ意気に感じて下さい。

作家　出来合ひの意気ぢや感じませんね。

編輯者　そんなに理窟ばかり云つてゐずに、是非何か書いて下さい。わたしの顔を立てると思つて。

作家　困りましたね。ぢやあなたとの問答でも書き

ませう。

編輯者　やむを得なければそれでもよろしい。ぢや今月中に書いて貰ひます。

　覆面（ふくめん）の人、突然二人（ふたり）の間（あひだ）に立ち現る。

覆面の人　（作家に）貴様（きさま）は情（なさけ）ない奴（やつ）だな。偉らさうな事を云つてゐるかと思ふと、もう一時の責塞（せめふさ）ぎに、出たらめでも何（なん）でも書かうとしやがる。おれは昔バルザツクが、一晩に素破（すば）らしい短篇を一つ、書き上げる所を見た事がある。あいつは頭に血が上（あが）ると、脚湯（きやくたう）をしては又書くのだ。あの凄（すさ）まじい精力を思へば、貴様なぞは死人も同様だぞ。たとひ一時の責塞（せめふさ）ぎにもし

ろ、なぜあいつを学ばないのだ？　（編輯者に）貴様も心がけはよろしくないぞ。見かけ倒しの原稿を載せるのは、亜米利加（アメリカ）でも法律問題になりかかつてゐる。ちつとは目前（もくぜん）の利害の外（ほか）にも、高等な物のある事を考へろ。

編輯者も作家も声を出す事能（あた）はず、茫然（ばうぜん）と覆面の人を見守るのみ。

（大正十年頃カ）

〔未定稿〕

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　　１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
　　　１９７９（昭和54）年４月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
２００７年６月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。